

# Business Report

平成22年4月1日 …… 平成22年9月30日

第146期【中間】



# 株主の皆さまへ

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当社の第146期中間期(2010年4月1日～2010年9月30日)の事業概況をご報告申し上げるにあたり、この間に株主の皆さまから賜りましたご支援、ご協力に対しまして、厚く御礼申し上げます。

当社は、本年4月より、5カ年の第3次中期経営計画を開始いたしました。現在ある豊富な新薬群を軸に着実な成長を実現しながら、さらに将来の成長のための投資として、世界中の患者さまの治療に貢献できる新薬の研究開発に注力し、疾患構造の変化をとらえた次世代の創薬の種を探索してまいります。

当期の活動としましては、国内営業では、新製品8品目を戦略品目と位置づけ、中でも高コレステロール血症治療薬「 Crestor 」、高血圧症治療薬「イルベタン」および4月発売の抗うつ薬「サインバルタ」を最重要戦略品目とし、市場シェアの拡大に取り組んでおります。

研究開発では、ViiV Healthcare社とのジョイントベンチャーにおいて開発中である抗HIV薬のフェーズIIb試験の良好な結果を7月に発表し、10月にはフェーズIII試験を開始いたしました。また、抗原特異的舌下免疫療法薬の導入契約や、グラム陰性菌に対する新規セフェム系抗生物質に関するGlaxoSmithKlineとの共同研究・開発・販売契約の締結など、ライセンス活動も積極的に進めております。

一方、米国事業におきましては、従来からのシオノギのオペレーションと買収しました旧 Sciele Pharma社の事業運営の二重構造になっておりましたが、本年7月にシオノギグループの米国本社として位置づけるShionogi Inc.を設立し、米国事業のリーダーシップを明確化するとともに、より迅速な意思決定と効率的な組織運営を行う体制を整えました。また、収益性、将来性の観点から現状の販売品目の絞り込みを行うとともに、これに対応した費用構造の見直しを図るなど、当面の業績の安定化に向けて事業構造の改善を進めてまいりました。今後、自社パイプラインのグローバルな開発のスピードを加速させることにより、最大市場で

## シオノギの基本方針(1957年制定)

### シオノギの目的

シオノギは、常に人々の健康を守るために必要な最もよい薬を提供する。

### そのために

益々よい薬を創り出さねばならない。  
益々よい薬を造らねばならない。  
益々よい薬を益々多くの人々に知らせ、使って貰わねばならない。  
創り、造り、売ることを益々経済的にやりとげねばならない。

### そのために

シオノギの人々のあらゆる技術が日々休むことなく向上せねばならない。  
シオノギの人々が、人間として日々休むことなく向上しなければならぬ。

### その結果

シオノギの人々は日々の仕事と生活に益々生甲斐を覚える。  
シオノギの人々の生活の仕方が益々改善せられる。  
シオノギの人々の生活が益々豊かになる。

ある米国での継続的な発展を実現させていくよう、引き続き注力してまいります。

これらの活動により、当期の業績は、戦略品目の売上の増加、ロイヤリティー収入の継続的な拡大などにより、4月に実施されました薬価改定による減収分をカバーし、売上高は前年同期に比べ増収となりました。また、利益面におきましては、四半期純利益は、米国事業に係る特別損失の計上により前年同期比で大幅減となりましたが、営業利益、経常利益とも前年

同期に比べ増益となり、なかでも営業利益は、上期では過去最高を計上することができました。

第2四半期末の配当金は1株当たり20円を実施させていただきます。配当を中心とした株主還元につきましては、今後も業績の拡大とともに安定的に向上させていく所存です。

株主の皆さまには、当社の事業活動にご理解をいただき、今後とも一層のご支援を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。

代表取締役会長

垣野元三



代表取締役社長

手代木功



## CONTENTS

株主の皆さまへ	01
当期の概況	03
連結財務ハイライト	05
研究開発の状況	06

新製品	07
決算の概況	08
トピックス	11
株式の状況	13
会社概要	14

# 当期の概況

## ■ 第2四半期(上期)経営成績(連結)

(単位:億円)

	平成22年度 上期予測	平成22年度 上期実績	対上期達成率(%)	対前年同期比(%)
売上高	1,428	<b>1,433</b>	100.4	8.1
営業利益	197	<b>192</b>	97.6	7.8
経常利益	187	<b>176</b>	94.6	7.9
四半期純利益	110	<b>68</b>	62.4	△ 40.8

売上高につきましては、国内医療用医薬品の増加およびロイヤリティー収入の拡大、また米国事業の決算期の変更もあり、増収となりました。収益面につきましては、米国事業は赤字となりましたが、それ以外は予定どおりの利益目標を達成し、営業利益、経常利益とも増益となりました。なお、四半期純利益につきましては、現在行っております事業構造の改善を進めるために特別損失を計上したため、大幅減となっております。

## 第2四半期(上期)売上高の内訳(連結)

(単位:億円)

	平成22年度 上期予測	平成22年度 上期実績	対上期 達成率(%)	対前年 増減
国内医療用医薬品	749	<b>751</b>	100.3	4
輸出/海外子会社	269	<b>260</b>	96.8	21
製造受託	15	<b>18</b>	121.7	△ 16
一般用医薬品	29	<b>28</b>	97.9	△ 2
診断薬	13	<b>15</b>	112.8	△ 1
ロイヤリティー収入	343	<b>348</b>	101.7	108
その他	10	<b>12</b>	118.0	△ 9
合計	1,428	<b>1,433</b>	100.4	107

国内医療用医薬品が前年を上回り、ロイヤリティー収入も継続して拡大しています。なお、製造受託は、本年3月の武州製薬(株)の売却に伴い減収となりました。

注:決算期の変更により、平成22年度上期実績は、米国子会社について、22年1月~22年9月の9ヶ月分を計上

## ■ 通期の見通しと業績予想の修正(連結)

(単位:億円)

	平成22年度 従来予測	平成22年度 修正予測	修正額
売上高	2,900	<b>2,830</b>	△ 70
営業利益	570	<b>540</b>	△ 30
経常利益	550	<b>515</b>	△ 35
当期純利益	360	<b>300</b>	△ 60

米国事業における販売品目の絞り込み等による業績予測の見直し、特別損失の発生、および最近の円高による為替の影響を受け、業績予想の修正を行いました。米国事業の効率的かつ安定的な運営を目指し、販売品目および費用構造の見直しに着手しておりますが、将来米国にて自社創製品を展開するためにも、引き続き、事業拠点の集約など必要な改善を進めてまいります。

## ■ 利益配分に関する基本方針および当期の配当

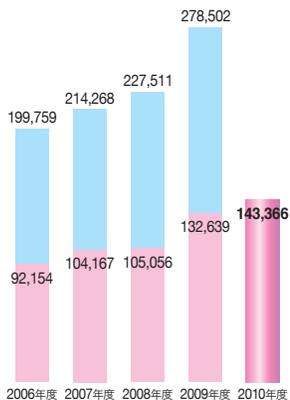
	1株当たり配当金		
	中間	期末	年間
平成22年度	<b>20円</b>	<b>20円(予定)</b>	<b>40円(予定)</b>
平成21年度	18円	18円	36円

当社は、中長期的な視点での企業価値の増大を図るため、事業投資を積極的に行うとともに、配当につきましては、各期の業績に応じた配分を基本におきながら、これを安定的に向上させることを目指しております。

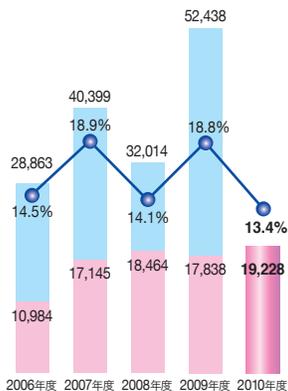
当期の業績予想の修正は、主として非資金的な特別損失によるものであること、国内販売などの事業活動においては、本年4月に開始しました第3次中期経営計画の達成に向けて順調に進展していることも考えあわせ、中間は20円とし、期末の予定(20円)につきましては、変更しておりません。

# 連結財務ハイライト

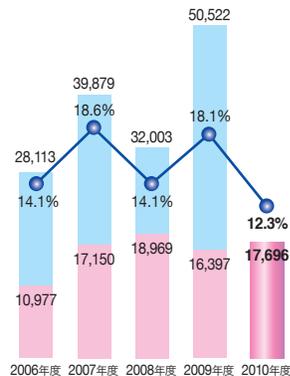
## 売上高



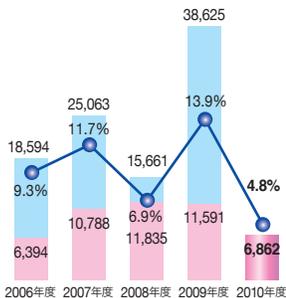
## 営業利益



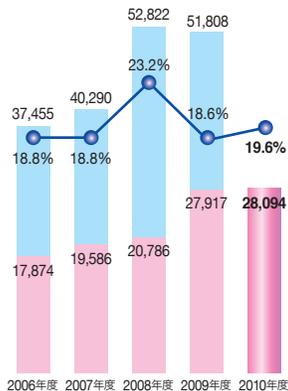
## 経常利益



## 当期(四半期)純利益



## 研究開発費



単位：百万円

- 年間
- 第2四半期(累計)
- 売上高に対する比率

# 研究開発の状況

国内では、本年1月に発売しました抗インフルエンザウイルス薬「ラビアクタ」の小児への適応追加が10月に承認されました。また、がん疼痛治療薬の注射剤の申請を9月に行いました。

海外では、抗HIV薬のフェーズIIb試験の良好な結果を受け、フェーズIII試験を開始しました。新たに、持続性注射剤の抗HIV薬がフェーズI試験に入っております。さらに、小児における流涎症、そして注意欠陥多動性障害の治療薬が米国にて承認されました。

## ■ パイプラインの状況 (2010年11月時点)

	フェーズ I	フェーズ II	フェーズ III	申請	承認
MS	S-474474(高血圧症)		日本:Phase III		
	S-2367(肥満症)		米国:Phase II 日本:Phase II		
	S-707106(2型糖尿病)		米国:Phase IIa		
	ADX415(高血圧症)		米国:Phase II 準備中		
	S-234462(肥満症)		米国:Phase I		
感染症	ラビアクタ*(インフルエンザ感染症、小児)		日本:承認 2010年10月		
	フィニバックス*(用法・用量追加、重症感染症)		日本:申請中 2010年3月		
	フィニバックス*(細菌感染症、小児)		日本:Phase III		
	S-349572/S-265744/S-247303(HIV感染症)		グローバル:Phase III		
	S-265744 LAP 持続性注射剤(HIV感染症)		米国:Phase I		
疼痛	サインバルタ*(糖尿病性神経因性疼痛)		日本:申請中 2009年9月		
	S-811717(がん疼痛)		日本:申請中 2010年9月		
	S-297995(オピオイド副作用緩和)		米国:Phase IIa 日本:Phase I		
婦人科	PSD502(早漏)		欧米:Phase III		
	Ospemifene(閉経後陰萎縮症)		米国:Phase III		
小児	CUVPOSA™(流涎症)		米国:承認 2010年7月		
	KAPVAY™(注意欠陥多動性障害)		米国:承認 2010年9月		
その他	S-555739(アレルギー性鼻炎)		欧州:Proof of Mechanism 日本:Phase IIa		
	S-888711(血小板減少症)		欧米:Phase II 日本:Phase I		
	S-288310(ヘブチドがんワクチン、膀胱がん)		日本:Phase I/II		
	S-222611(悪性腫瘍)		欧州:Phase Ib		
	S-488410(ヘブチドがんワクチン、食道がん)		日本:Phase I/II 準備中		
	S-524101(ダニ抗原によるアレルギー性鼻炎)		日本:Phase I 準備中		

連結財務ハイライト 研究開発の状況

LAP: Long acting parenteral formulation

# 新製品

2010年4月 発売

サインバルタ®  
カプセル20mg

サインバルタ®  
カプセル30mg

抗うつ薬



2010年9月 発売

セデス®・ハイG  
ピリン系解熱鎮痛薬

セデス®V FR  
外用消炎鎮痛薬



2010年5月 発売

パイロン®  
溶かしてのむかぜ薬

ビタミンC配合総合かぜ薬



2010年9月 販売名変更

オキノーム®散2.5mg

オキノーム®散5mg

オキノーム®散10mg

がん疼痛治療薬

「オキノーム®散0.5%」の販売名を、1包あたりの有効成分量ごとに変更

2010年7月 発売

プロビキューレ®SP錠  
ビタミンC主薬製剤

プロビキューレ®AC錠  
ビタミンB2主薬製剤

インターネット限定販売



2010年10月 発売

セデス®・ファースト  
非ピリン系解熱鎮痛薬



2010年7月 容量・パッケージ変更

ポポン®S

総合ビタミン剤



2010年10月 小児への適応追加

ラピアクタ®  
点滴用バッグ300mg

ラピアクタ®  
点滴用バイアル150mg

抗インフルエンザウイルス薬



2010年8月 発売

シオノギ®.PV軟膏  
シオノギ®.PVクリーム

アンテドラッグステロイド  
配合外用剤



インフルエンザ治療の選択肢が広がります

- 成人だけでなく小児に対しても、
- ・1回の投与で十分な効果と確実なコンプライアンスが期待できます
- ・重症例や経口投与が困難な症例にも使用が可能です

## ■ 連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期 連結累計期間 (平成22年4月1日～ 平成22年9月30日)	前第2四半期 連結累計期間 (平成21年4月1日～ 平成21年9月30日)
売上高	143,366	132,639
売上原価	39,057	36,861
売上総利益	104,308	95,778
販売費及び一般管理費 (うち研究開発費)	85,080 (28,094)	77,939 (27,917)
営業利益	19,228	17,838
営業外収益	1,205	1,145
営業外費用	2,737	2,586
経常利益	17,696	16,397
特別利益	279	—
特別損失	6,468	47
事業構造改善費用	3,323	—
減損損失	3,145	—
税金等調整前四半期純利益	11,507	16,350
法人税、住民税及び事業税	8,981	6,499
法人税等調整額	△ 4,359	△ 1,747
少数株主損益調整前四半期純利益	6,884	—
少数株主利益	22	7
四半期純利益	6,862	11,591

新製品・決算の概況

売上面におきましては、国内では、戦略品目「クレストール」「イルベタン」「サインバルタ」が大きく増加し、薬価改定などによる減少分をカバーしました。また、アストラゼネカ社による海外での「クレストール」の販売増によりロイヤリティ収入が伸長しました。さらに、米国事業において決算期を12月から3月に変更したことにより1月～3月の売上が加わり、連結の売上高は前年同期比8.1%の増となりました。

利益面では、米国事業においては、業績が悪化し、その正常化に向けた事業構造改善費用の発生などにより赤字となりましたが、米国以外の事業は、ほぼ予定どおりの利益目標を達成しました。その結果、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益は、それぞれ前年同期比7.8%、7.9%の増となりましたが、四半期純利益は、米国事業に係る特別損失の計上により、40.8%の大幅減となりました。

## ■ 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期 連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>【資産の部】</b>		
流動資産	<b>241,586</b>	<b>250,664</b>
固定資産	<b>275,188</b>	<b>290,097</b>
有形固定資産	65,793	62,447
無形固定資産	108,392	119,065
投資その他の資産	101,002	108,584
<b>資産合計</b>	<b>516,775</b>	<b>540,761</b>
<b>【負債の部】</b>		
流動負債	<b>66,669</b>	<b>66,829</b>
固定負債	<b>123,796</b>	<b>131,955</b>
<b>負債合計</b>	<b>190,465</b>	<b>198,785</b>
<b>【純資産の部】</b>		
株主資本	<b>355,275</b>	<b>354,443</b>
資本金	21,279	21,279
資本剰余金	20,227	20,227
利益剰余金	333,504	332,669
自己株式	△ 19,735	△ 19,733
評価・換算差額等	△ <b>29,352</b>	△ <b>12,939</b>
その他有価証券評価差額金	6,761	10,362
為替換算調整勘定	△ 36,114	△ 23,301
少数株主持分	<b>386</b>	<b>471</b>
<b>純資産合計</b>	<b>326,309</b>	<b>341,976</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>516,775</b>	<b>540,761</b>

当第2四半期連結会計期間末の資産は、無形資産の償却および為替変動による目減り、投資有価証券の時価の下落により固定資産が減少し、前連結会計年度末と比べて239億86百万円減少しました。

負債は、借入金の返済などにより、前連結会計年度末と比べて83億19百万円減少し、純資産も、投資有価証券の時価の下落による含み益の減少や円高による為替換算調整勘定のマイナス増により、156億66百万円減少しました。

## ■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期 連結累計期間 (平成22年4月1日～ 平成22年9月30日)	前第2四半期 連結累計期間 (平成21年4月1日～ 平成21年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>30,947</b>	<b>20,630</b>
税金等調整前四半期純利益	11,507	16,350
減価償却費	9,980	8,656
のれん償却額	2,722	1,904
資産・負債増減等	20,421	2,626
法人税等の支払額	△ 13,684	△ 8,907
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 16,372</b>	<b>△ 5,288</b>
定期預金の払戻・預入	59	△ 309
有形固定資産の取得・売却	△ 8,138	△ 4,254
投資有価証券等の取得・売却	△ 4,923	3,165
貸付金の回収による収入	1	97
その他	△ 3,370	△ 3,987
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 13,173</b>	<b>8,051</b>
配当金の支払額	△ 6,018	△ 4,688
借入・返済	△ 7,149	△ 17,181
社債の発行による収入	—	30,000
その他	△ 5	△ 78
<b>現金及び現金同等物に係る換算差額</b>	<b>△ 2,310</b>	<b>383</b>
<b>現金及び現金同等物の増減額(△は減少)</b>	<b>△ 909</b>	<b>23,776</b>
<b>現金及び現金同等物の期首残高</b>	<b>97,663</b>	<b>51,536</b>
<b>現金及び現金同等物の四半期末残高</b>	<b>96,754</b>	<b>75,312</b>

当第2四半期連結累計期間の「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、売上債権の圧縮などにより増加し、収入増となりました。

一方、「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、有形固定資産の取得による支出を中心に前年同期に比べ支出増、「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、前第2四半期連結累計期間に社債の発行による収入等があったため、支出増となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の「現金及び現金同等物の四半期末残高」は、967億54百万円となりました。

## Stallergenes社と抗原特異的舌下免疫療法薬に関する ライセンス契約を締結

フランスのStallergenes社と、家ダニを抗原とするアレルギー性鼻炎を対象とした抗原特異的舌下免疫療法薬の日本および台湾における開発・販売に関するライセンス契約を9月に締結しました。同時に、スギ花粉によるアレルギー性鼻炎を適応とした特異的舌下免疫療法薬の共同研究・開発・商業化に関する契約も締結いたしました。

特異的免疫療法は、アレルギーの原因となっている抗原を少しずつ増量しながら長期にわたり投与し、抗原に対する生体の応答性を弱めていくもので、アレルギー疾患の治療に有用であることが知られています。特に、舌下型の特異的免疫療法は全身性の副作用のリスクが大幅に軽減されており、安全で利便性の高い治療法です。アレルギー性呼吸器疾患の免疫療法に特化し、舌下免疫療法のパイオニアであるStallergenes社と提携することにより、日本において家ダニやスギによるアレルギー性鼻炎で苦しむ患者さまに、抗原特異的舌下免疫療法という新たな治療の選択肢を提供し、アレルギー性疾患の治療に一層貢献できることが期待されます。

## GlaxoSmithKlineとグラム陰性菌セフェムに関する 共同研究・開発・販売契約を締結

GlaxoSmithKline (GSK社) と、シオノギが開発中のグラム陰性菌に対する新規セフェム系抗生物質(グラム陰性菌セフェム)に関する共同研究・開発・販売契約を10月に締結いたしました。

既に共同研究・開発の実績があるGSK社とのアライアンスは、製品価値の最大化とともに、当社の第3次中期経営計画におけるグローバル展開を実現するための大きな前進となります。また、グラム陰性菌による感染症は、多剤耐性緑膿菌や多剤耐性アシネトバクターなどの耐性株の出現頻度の増加に伴い、世界的に大きな問題となっておりますが、多剤耐性の獲得メカニズムは多様である上、耐性株の性状は地域によっても異なるため、グラム陰性菌セフェムの共同研究・開発は、各地の耐性株の評価を進める上でも大きな意義があると考えております。

シオノギは、感染症治療薬の国内トップメーカーとして、感染症の研究開発、販売および適正使用に関する情報提供活動に注力してまいりました。多剤耐性菌を含む広範囲な細菌に有効な新規感染症治療薬の必要性が高まっている社会情勢の中で、日本のみならず世界における感染症治療に対してより一層の貢献ができるよう、努力してまいります。

## 「セデス®・ファースト」発売

～のむ人目線のトリプルサポートで、セデス・シリーズのファーストチョイスに～

10月5日に、非ピリン系解熱鎮痛薬「セデス・ファースト」を発売いたしました。

「セデス・ファースト」は、「のむ人目線のトリプルサポート」として、多くの消費者アンケートから、とくに解熱鎮痛薬に期待される3つの特徴を持っています。

- ① 眠くなる(鎮静作用のある)成分を含んでいません
- ② 酸化マグネシウム(制酸成分)配合で胃にやさしい
- ③ フィルムコーティング錠で、苦味を抑えてのみやすい

「セデス・ファースト」は、のむ人目線のトリプルサポートにより、セデス・シリーズのファーストチョイスとしておすすめの製品です。

またTV広告として、新しいイメージキャラクターに、タレントの明石家さんまさんを「スマイル大使」として起用し、全国で展開中です。スマイル大使に扮する明石家さんまさんが、演台から「セデス・ファースト」の登場を元気よくリリースし、頭痛・発熱に速くよく効く「セデス・ファースト」、のむ人目線でうれしいトリプルサポートをお伝えするというストーリーです。

シオノギは、今年9月に発売した「セデス・ハイG」、  
「セデスV FR」に引き続き、「セデス・ファースト」を発売することで、セデス・シリーズのラインナップをさらに拡充し、“いつもそばに、あなたのセデス”の言葉とともに、皆さま一人ひとりの痛みの緩和に貢献することで、QOL(Quality of Life、生活の質)の向上に取り組んでまいります。



### セデス・シリーズ



2010年9月発売



2010年9月発売



2010年10月発売

# 株式の状況 (平成 22年9月30日現在)

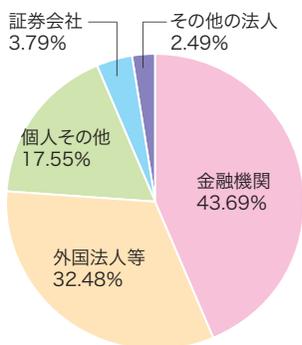
- 発行可能株式総数 1,000,000,000株
- 発行済株式の総数 351,136,165株
- 株主数 33,814名
- 株主1人当たり平均持株数 10,384株
- 大株主(上位10名)

	株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
1	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	20,444	6.10
2	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	18,955	5.66
3	住友生命保険相互会社	18,604	5.56
4	日本生命保険相互会社	13,138	3.92
5	JP Morgan Chase Bank 385147	10,445	3.12
6	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (住友信託銀行再信託分・株式会社三井住友銀行退職給付信託口)	9,485	2.83
7	State Street Bank and Trust Company	7,756	2.32
8	日本興亜損害保険株式会社	7,551	2.25
9	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	7,215	2.15
10	株式会社三井住友銀行	6,564	1.96

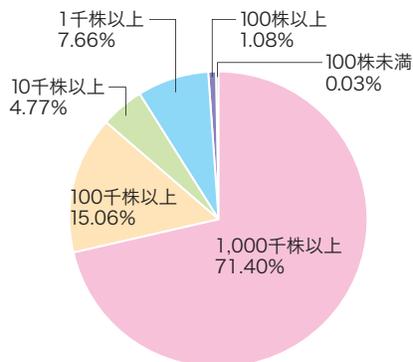
(注) 1. 当社は自己株式16,232,848株を保有しておりますが、上記大株主の中には含めておりません。  
 2. 持株比率は、発行済株式の総数から自己株式を控除した334,903,317株に対する割合として算出しております。

## 株式の分布状況

所有者別株式分布



所有数別株式分布



# 会社概要

## 概要

商号	塩野義製薬株式会社 (SHIONOGI & CO., LTD.)
創業	1878年(明治11年)3月17日
会社設立	1919年(大正8年)6月5日
決算期	3月31日
事業内容	医薬品、診断薬などの製造・販売
資本金	212億79百万円
従業員数	5,486名(連結、平成22年9月30日現在)

## 【主な事業所】

本社	大阪市中央区道修町3丁目1番8号 Tel 06-6202-2161
東京支店	東京都渋谷区渋谷2丁目17番5号
名古屋支店	名古屋市中区新栄町2丁目9番地
福岡支店	福岡市中央区長浜1丁目1番35号
札幌支店	札幌市中央区北三条西4丁目1番地1
中央研究所	大阪市福島区鷺州5丁目12番4号
新薬研究所	豊中市二葉町3丁目1番1号
医学研究所	摂津市三島2丁目5番1号
油日ラボラトリーズ	滋賀県甲賀市甲賀町五反田1405番地
摂津工場	摂津市三島2丁目5番1号
金ヶ崎工場	岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根森山7番地
杭瀬事業所	尼崎市杭瀬寺島2丁目1番3号

## 【主な子会社】

シオノギファーマケミカル株式会社	徳島市川内町平石夷野224番地20
シオノギ総合サービス株式会社	大阪市中央区道修町4丁目7番6号
シオノギ分析センター株式会社	摂津市三島2丁目5番1号
Taiwan Shionogi & Co., Ltd.	4F, No. 2, Sec. 2, Nanking East Road Taipei 10457, Taiwan
Shionogi Inc.	100 Campus Drive, Florham Park NJ 07932, U.S.A.



<http://www.shionogi.co.jp/>

## 役員

代表取締役会長	塩野 元三
代表取締役社長	手代木 功
取締役 専務執行役員	戸梶 幸夫
取締役 専務執行役員	三野 泰宏
社外取締役	野村 明雄
社外取締役	茂木 鉄平
常勤監査役	大谷 光昭
常勤監査役	小松 聰司
社外監査役	永田 武全
社外監査役	横山 進一
常務執行役員	福田 卓雄
常務執行役員	久米 龍一
常務執行役員	澤田 拓子
執行役員	近藤 裕郷
執行役員	五島 正光
執行役員	加茂谷 佳明
執行役員	花崎 浩二